



## 美唄市

農業者やJA関係者がサポーター。米どころのネットワークを活用して進める「美唄市グリーン・ルネサンス推進事業」



美唄市では、農業体験学習を通じ「地域に根ざし、暮らしに学ぶ」という「美唄市グリーン・ルネサンス推進事業」を実施しています。体験実施にあたっては、学校と関係者（PTAやJA青年部・女性部など）が直接体験メニューや日程を決めていく方法と、市教育委員会がコーディネート役として、学校と協力農家の間で受入条件等の調整を行う方法があります。

その際に力になってくれるのが、農業関係者やJA関係者のサポーターたちです。子どもたちに農業体験の楽しさを届けようと、市と関係者が一丸となって取り組んでいます。

### サポーター紹介

## 農業者、JA、JA青年部、JA女性部ほか



メンバー ..... 50名程度

### メンバーの確保方法

美唄市小学校農業体験学習検討委員やJA、食に関わる美唄市内の関係機関・団体が構成する「びばい食育ネットワーク」をはじめ、人的なネットワークを活用しています。平成24年度からは美唄市シルバー人材センターの協力を得ることを検討中。

### 活動内容

- 稲作体験
  - 苗入れ容器の用意、田植え指導、手足の洗い場の用意など
  - 稲刈り指導、米が収穫されるまでの工程説明、はさ掛けのためのイネの結束方法の指導、一部コンバイン収穫の実演
  - 脱穀機（昔の足踏み脱穀機・千歯こき、とうみは教育委員会で準備）の用意、作業指導、イネ→コメ→ゴハンになるまでの過程を説明
  - もちつきの指導、もちつき事前・事後の作業（米とぎ、蒸かし、お雑煮、餡、きなこの用意、配膳、後片付けなど）
- 畑作・野菜体験
  - 栽培ほ場の耕運作業、肥培管理、たまねぎ、にんじん、だいこん、大豆（えだまめ、成熟大豆）、じゃがいもなどの植付け、移植作業の説明、栽培中の生育状況説明、間引き、草取り作業等の指導

### 特記事項

#### 受入農業者への感謝の気持ちや先生も楽しむ姿勢を忘れずに

子どもたちに美唄市の基幹産業である農業を知ってもらう農業体験を継続するには、農業者・学校との連携が必要不可欠です。実施にあたり基本的な考え方は次の三点です。第一に、子どもたちに農業体験の楽しさを知ってもらうこと。たとえ天候や体調が万全でなくとも、友だちや先生、地域の人たちとわいわい話しながら体験するとたいいていの子もみんな皆笑顔になり、「楽しかった」と言ってくれます。第二は、農業体験の関係者に感謝の気持ちを持って接すること。なかでも受入農業者さんには様々な面で甚大なご協力をいただいています。当日のあいさつやマナーはとても重要です。そして第三は、先生にもぜひ「一緒に楽しもう」という前向きな姿勢で臨んでいただきたいということです。こうした思いを共有しつつ学校と農業者、我々教育委員会と連携しながら美唄の農業体験を進めています。

ここに連絡！

美唄市教育委員会 学務課

電話 0126-62-3146



# 名寄市

地域の食材とともに豊かな人材を活用して取り組む農業体験、  
窓口は「なよろ食育推進ネットワーク」



2006(平成18)年、国の食育基本法制定を受け発足した「なよろ食育推進ネットワーク」。平成20・21年度には教育ファーム推進事業の実証モデル地区に応募し認証され、日本最北端の教育ファームとなりました。市内の小学校を対象にした学校型と、園児、小学校1・2年生及びその家族を主な対象にした一般公募型の取組(ちびっこワンダーランド 畑の学校)を実施しています。「ちびっこワンダーランド 畑の学校」では、微生物応用技術研究所名寄研究農場を会場とし、家族ごとの畑を提供。自然農法による栽培や農作業のコツについては、地元農業者などがサポーターとして指導にあたっています。

サポーター  
紹介

## なよろ食育推進 ネットワーク

メンバー…………… 地元農業者ほか10名  
(財団法人微生物応用技術研究所名寄研究農場、  
地元農業者ほか)

メンバーの確保方法 地元老人クラブ、農業者などに協力を依頼



活動内容

- 学校支援型の事業 (智恵文小学校、東風連小学校、風連下多寄小学校、風連日進小中学校、中名寄小学校 計5校が対象)  
 水稻、じゃがいも、にんじん、たまねぎ、トマト等の播種・苗植え ▶ 観察・草取り・間引き ▶ 収穫  
 ▶ 収穫祭(取組成果発表、調理・試食)
- 一般公募型の事業 (「ちびっこワンダーランド 畑の学校」親子・家族が対象)  
 じゃがいも、かぼちゃ、トマト、とうもろこし等の播種・苗植え ▶ 観察・草取り・間引き ▶ 収穫  
 ▶ 収穫祭(調理・試食) ▶ 卒業式 ※オプションで花の寄せ植え、漬物作り、じゃがいもの越冬貯蔵などを実施

特記事項

- 学校支援型では、地元老人クラブや保護者等の現役または農業者OBが指導協力
- 一般公募型では、「畑の学校」開校日に近隣の農業者5名が農業の先生として指導協力
- 体験内容や手順、受入方法など、関係者間で事前に十分な打合せを実施



### サポーターの声

なよろ食育推進ネットワーク  
代表 宮下省三さん

### 子どもたちが学べる農の場を、再び地域に

農業は「土を耕し、種を播き、いのちを育み、いのちをつなぐ」という人間にとって最も基本的な活動です。半世紀ほど前までは、都市部を除き全国各地で行われてきた営みであり、多くの子どもたちはその日常的な風景の中から様々なことを学んできました。現在では都市部のみならず農村部の子どもたちも、農業や農作業から多くを学ぶことができなくなってしまいました。

農作業の一連の体験・学習を行う教育ファームは、自然の恩恵と厳しさに触れながら食べ物が作られる体験を通して、子どもたちの健やかな成長と、家庭における食育の推進につながることを願っています。この事業を続けてきて、願い通りの効果に結びつく手応えを感じています。

ここに連絡!

なよろ食育推進ネットワーク

担当者:菅原啓順  
(微生物応用技術研究所名寄研究農場)

電話:01654-8-2724  
E-mail: moa-nayoro@moa-inter.or.jp